

# 三重PECS研究会 第12回研修会報告

～PECSで子どもや支援者の笑顔を増やしませんか？～

支援学校の2つの事例発表をもとにグループ討議を行いました。

日時	2015年12月13日(日)13:00～16:30
場所	三重県立城山特別支援学校 視聴覚室
参加人数	39名
内容	<p>1. A 支援学校 事例発表</p> <p>(1) 事例発表</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 小学部1年生の絵カードを使った実践報告。</li><li>・ 「児童1」家からbookを持参。課題は、フェイズ3の弁別学習(嫌いなものを選び要求することがある)。また、全体で使う日課カードを取って要求することがあること。</li><li>・ 「児童2」フェイズ3を学習中。簡単な言葉(単語)ができる。「本」が好子で、「本」のカードを使って日常的に要求を伝えることができている。</li><li>・ 「児童3」家でフェイズ3を学習。課題は、家でフェイズ3まで学習を進めているが、学校ではフェイズ1から順に指導していく必要があるか。</li><li>・ 「児童4」フェイズ3まで学習。課題は、好子を増やす、フェイズ4(好子カード+くださいカード)の学習。</li><li>・ 「児童5」フェイズ3まで学習。課題は、時間が経つと、学習をすぐ忘れること。</li></ul>  <p>(2) ペア協議・質疑応答・助言者の先生より</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ フェイズ3の弁別学習は、「好きな物 vs 嫌いな物」から始める。児童1のケースは、嫌いな物で遊んでおり、嫌子でなく好子になっている。放り投げる、逃げ出すくらいの嫌子を用意し、弁別学習を進める。また、日課カードの手渡しは好子の要求とは限らない。「したくない」「イヤ」の拒否かもしれない。カード自体で遊ぶ、感覚遊びの延長かもしれない。しっかり、計画されたトレーニングの中で使い方を学習していく。</li><li>・ 児童2のケースは、「本」というカードでひとくりにせず、本の種類を増やして弁別学習してはどうか。</li><li>・ 児童3のケースは、家でフェイズ3まで学習していたら、学校ではフェイズ4から進めたらいいのではないか。</li><li>・ フェイズ1・2で「ください」カードを使用するのはよくない。「ください」カードがあれば、どんなアイテムでも適用してしまう。弁別しなくても済む。フェイズ3の弁別学習をしっかり行ってから、フェイズ4の「ください」「ちょうだい」を使った文章構成の学習に進んでいく。</li><li>・ プロンプト依存にならないように進めることが大切。フェイズ1・2は、2人で指導をすることが重要。徐々にプロンプトを減らし、自発性を高めていく。</li><li>・ 一人ひとりにコミュニケーションbookが用意されていることが素晴らしい。</li><li>・ 先生同士で協力し合っていて、素敵。</li></ul>

- ・ 子どもの実態や学習の進み具合も違うので、初めは集団でない方が良い(集団の中でも個別の課題や必要な学習が保障されていたら問題ない)。
- ・ プロンプターがコミュニケーションパートナーの役割をしている。2 人の役割も途中で交代した方が良い。プロンプターの方がテクニックを要するので、慣れている人がプロンプターをした方が良い。
- ・ 素早く好子を渡し、名称も伝える。褒めるのは、その後。

## 2. 門先生 事例発表

### (1) 事例発表

- ・ 現在 23 歳の男子。中学 1 年生の時からの実践報告。フェイズ1からの指導を動画でご紹介いただいた。
- ・ 1 回の指導の中で、進捗状況により、どんどん進めていき、人の般化も行う。
- ・ フェイズ2は、徐々に距離を長くしていくことがポイント。
- ・ 伝えるときに指差しも促す。ことばの発語が期待できれば、遅延しことばも促す。
- ・ プロンプト依存にならないように、プロンプトは早く減らしていく。
- ・ 10 年後の彼は、絵カードだけでなく、筆談、メモ帳、音声言語、iPECS等、いろいろな手段を使っている。
- ・ PECS を始めるのに年齢は関係ない。年齢が高いと飲み込みが早い反面、理解言語が増えているので、絵カードをたくさん用意しないといけない可能性が高い。
- ・ 自発性が乏しい子、人ほど、PECS は有効。

### (2) ペア協議・質疑応答・助言者の先生より

- ・ (質問)「センテンスボードは横?縦?」→(回答)「どちらでも。横の方がたくさんカードを並べられる利点はある」。
- ・ (質問)「粘土なら、『ください』カードを貼ってくれるが、他は貼ってくれない」→(回答)「先に『ください』カードをセンテンスボードに貼っておく。エラーしたらバックステップで指導していく」。
- ・ (質問)「フェイズ 12 を終えたが、フェイズ 3 はなかなか進まない」→(回答)「フェイズ 3 は、マニュアル通り、AB の順に。エラーしたら 4 段階の修正を行う」。

## 3. グループ討議

- ・ 5つのグループに分かれ、お互いの情報交換をしながら、発表や各々の課題について協議した。
- ・ カードづくりが大変である。カードが増えてきて、その整理も大変。
- ・ カードには字を入れ、誰にでもよりわかりやすいようにする。
- ・ いろいろな立場や考え方があるが、大事なことを整理しながら関係者同士で連携していくことが重要。
- ・ 重度の知的障害児にも PECS が有効だろうか(「大変有効である」との回答)。

	<p><b>4. 助言者の先生より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重度のお子さんでも PECS は、大変有効。フェイズ 1・2 は、弁別は不要。</li> <li>・ 子どものことを知ることがスタート。アセスメントを共有する。</li> <li>・ PECS ワークショップに参加しやすいとくみも必要。ある程度の人数が集まれば、スポンサーワークショップを企画すると良い。休日参加しにくい保護者のために平日開催も可能。場所の提供があれば、さらに安く計画できる。</li> </ul>
<p><b>ポイント</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ お互いの意見交換はしっかり行いながら、関係者の連携を大切にしていく。</li> <li>○ 学習をどんどん進めていく。般化も計画に盛り込んで進める。</li> </ul>